

# FURUTECH

## Review

Net Audio

vol.14 2014 SUMMER – JAPAN



# ポータブルでもデスクトップでも活躍 ADLでネットオーディオを存分に楽しむ

ポータブルオーディオにおけるデジタル接続の優位性は、もはや言うに及ばないだろう。ADLのポータブルアンプA1は、ユーザーが求めるポイントを押さえた機能の搭載に加えて、Android端末とのデジタル接続を可能としている。本項では同ブランドのEH008と組み合わせて、野村ケンジ氏が徹底試聴を行った。ポータブル環境において幅広いラインアップを誇るADLの魅力レポートしたい。

Text by  
**野村ケンジ**  
Kenji Nomura

Photo by 田代法生

# ADL A1

¥49,800(税別)



# ADL EH008

¥19,800(税別) \*2014年5月発売予定

**X1と同じコンセプトながら  
キャラクターは大きく異なる**

ADLから、ポータブルヘッドフォンアンプのA1がリリースされた。このA1、昨年リリースされたX1に瓜ふたつの外観を持つモデルで、DAC搭載のポタアンという製品コンセプトも変わらない。しかしながらそのキャラクターは大きく異なっており、X1がiPhoneなどのiOSデバイス対応だったのに対し、A1はAndroidに対応(48kHz/16bitまで)。さらにUSB DAC機能としては、192kHz/24bit対応に加え、5・6MHzまでのDSD音源にも新たに対応している。こういった機能変更のため、内部デバイスも一新。音質のキモとなるDACはシーラスロジック製CS4392Kを搭載。オペアンプにTI社製LME49726を、ヘッドフォンアンプにTI社製TPA6130A2を、USBチップにVIA社製VT1736を採用するなど、さらなる音質追求がなされている。実際の

**音質を追求し一新された内部デバイスの効果はリアルで完成度の高いサウンドが示している**



PCおよびAndroid端末とは、底面のUSB入力端子を用いて接続する。ヘッドフォン出力は上面と底面に各1系統装備されており、複数同時出力が可能となっている



EH008ではハウジングにラバー素材のエラストマーを採用。密閉性を向上させると共に、高いフィット感を実現する。取り外しも可能となっている



A1は背面に備えられたスイッチで、入力切り換えを行う。AndroidではUSB(Aタイプ)、Opticalでは光デジタル、USB DACではUSB(ミニBタイプ)の端子を用いた接続となる

#### Specifications

[A1] ●USBチップ: VIA VT1736 ●DACチップ: High-performance CIRRUS LOGIC CS4392K ●対応サンプリング周波数: PCM→44.1/48/88.2/96/176.4/192、DSD→2.8/5.6MHz ●ヘッドフォンアンプ: Texas Instrument TPA6130A2 ●オペアンプ: TI-LME49726 ●ヘッドフォン出力レベル: 70mW(12Ω)、80mW(16Ω)、38mW(56Ω)、9mW(300Ω) ●入力端子: 3.5mmステレオミニジャック×1、光デジタル×1、USB(Aタイプ)×1、USB(ミニBタイプ)×1 ●出力端子: 3.5mmステレオミニジャック×2、光デジタル×1 ●サイズ: 68W×16.5H×118Dmm ●質量: 約150g  
[EH008] ●型式: ダイナミック型 ●ドライバー口径: 8mm(中低域用)、5.8mm(高域用) ●感度: 100±3dB SPL ●周波数帯域: 20Hz~20kHz ●インピーダンス: 19Ω ●コネクタ: 24k金メッキステレオ3.5mmL型プラグ ●コード: α-OFC素材ケーブル(1.3m) ●質量: 約15g(ケーブル含む) ●取り扱い: フルテック(株)

#### ●デジタル接続を楽しむ

A1は光デジタルの入出力端子を持っているので、光デジタル出力を持つポータブルプレーヤーとの接続が可能であり、DDコンバーターとしても機能する。またXperia Z1やGALAXY note3などのAndroid端末とのデジタル接続に対応する(最大48kHz/16bitまで)。iOS端末とのデジタル接続に対応する同ブランドのX1(¥39,800/税別)など、利便性に優れたラインアップを用いてポータブルでも高品位なサウンドを楽しみたい。(編集部)



使い勝手も、X1に比べて多少変更されている。光デジタル入力が装備され、PCとの接続と合わせ3タイプに対応となった。

**リアルティのある音色傾向を持ち  
明朗快活でフォーカス感が高い**

さて、最新USB DACとしても遜色のない機能性を持ち合わせることとなったA1だが、サウンドクオリティの程はいかがなものだろう。その実力を確認するべく、デュアルダイナミックドライバーを搭載した同社製のイヤフォンEH008を使用。このイヤフォンについては、筐体外部に設けられたストッパーに注目したい。固定の安定感が増すことで装着感が高まり、遮音性の向上、さらには音質の向上にも寄与しているのだ。この組み合わせで、まずはポータブルプレーヤーAK120をアナログ接続して試聴した。

リアル志向の、自然なサウンド。音色傾向は原音を大切にした素直な表現といったイメージで、表現のダイナミックさ、メリハリの良さを大切にしつつも、オーバーな表現にならないよう、ごくオーソドックスな増幅に留めている印象だ。それがかえって音色的にリアルに感じられ、とても好感が持て

る。続いて、スマホを付属のUSBケーブルでデジタル接続した。するとS/Nがグッと向上、ダイレクト感が増したうえ、ていねいな抑揚表現を持つサウンドとなった。おかげで、A1ならではの音色的なリアルティがさらに向上している。Android端末で良い音を聴きたい、という人にはかなり魅力的なチョイスとなるだろう。ホームページ上に対応機種のリストが掲載されているので、購入前に確認して欲しい。

最後に、PCとUSBケーブルで接続してサウンドをチェック。するとかなりフォーカス感の高い、明朗快活なサウンドが飛び出てきた。音色傾向はあくまでも同じナチュラルテイスト派なのだが、スマホと比べてもさらにS/Nが良くなり、階調表現がとてもきめ細やかになってくれたため、リアルティが格段に向上している。ドラマムスなどは、スネアもフロアタムも余韻をしっかりと感じられ、それでいてフォーカス感の高い響きのよい演奏を楽しめる。ヴォーカルも、細やかなニュアンス表現までしっかりと引き出してくれるのでとても聴き心地が良い。リアルさや表現の細やかさなど、完成度の高いサウンドといえる。